

まちづくりにおける空き家の活用

饗庭 伸（あいばしん） aib@tmu.ac.jp

首都大学東京 都市環境学部 准教授

専門：都市計画・まちづくり

国立市谷保 やぼろじの実践

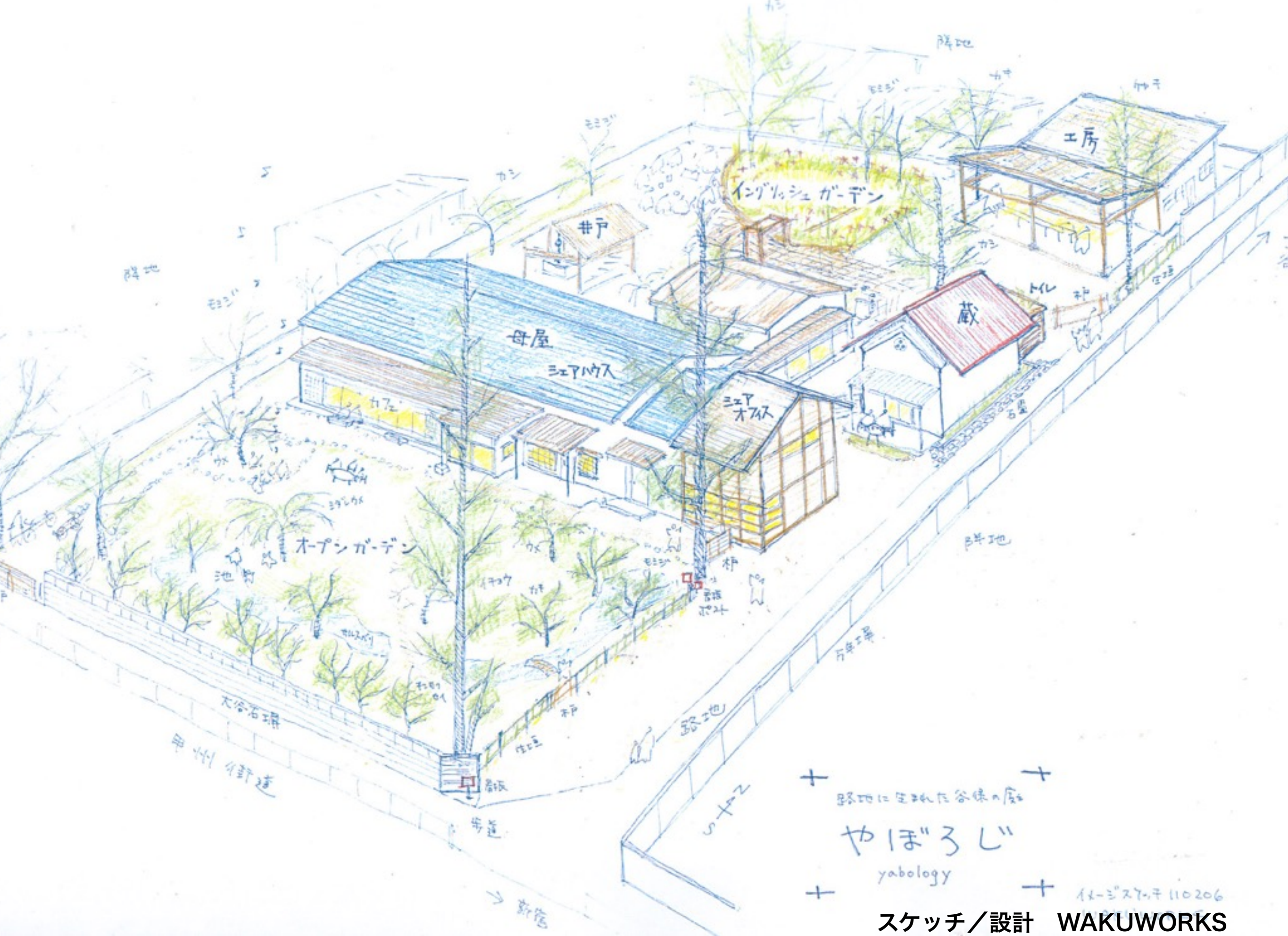




JR 南武線

甲州街道







ポイント 1 民間の力で公共空間をつくった

昭和30年代の空き家を地域の拠点として再生。税金は使わなかった。

多摩地域の持っている潜在的な豊かさ（人的なネットワークと空き家）をうまく使った。

ポイント2 いろいろな人を巻き込んだ

いろいろなことをワークショップ形式で企画した。



ポイント3 様々な「用途」が混在している。

一括では空間を使えなかった。

人口減少で「大規模開発」が成立しなくなる。

小さな「必要性」をよせ集めることによって成立。

ポイント 4 空間は長く続かない。

人々の人生のサイクルにあわせるしかない。

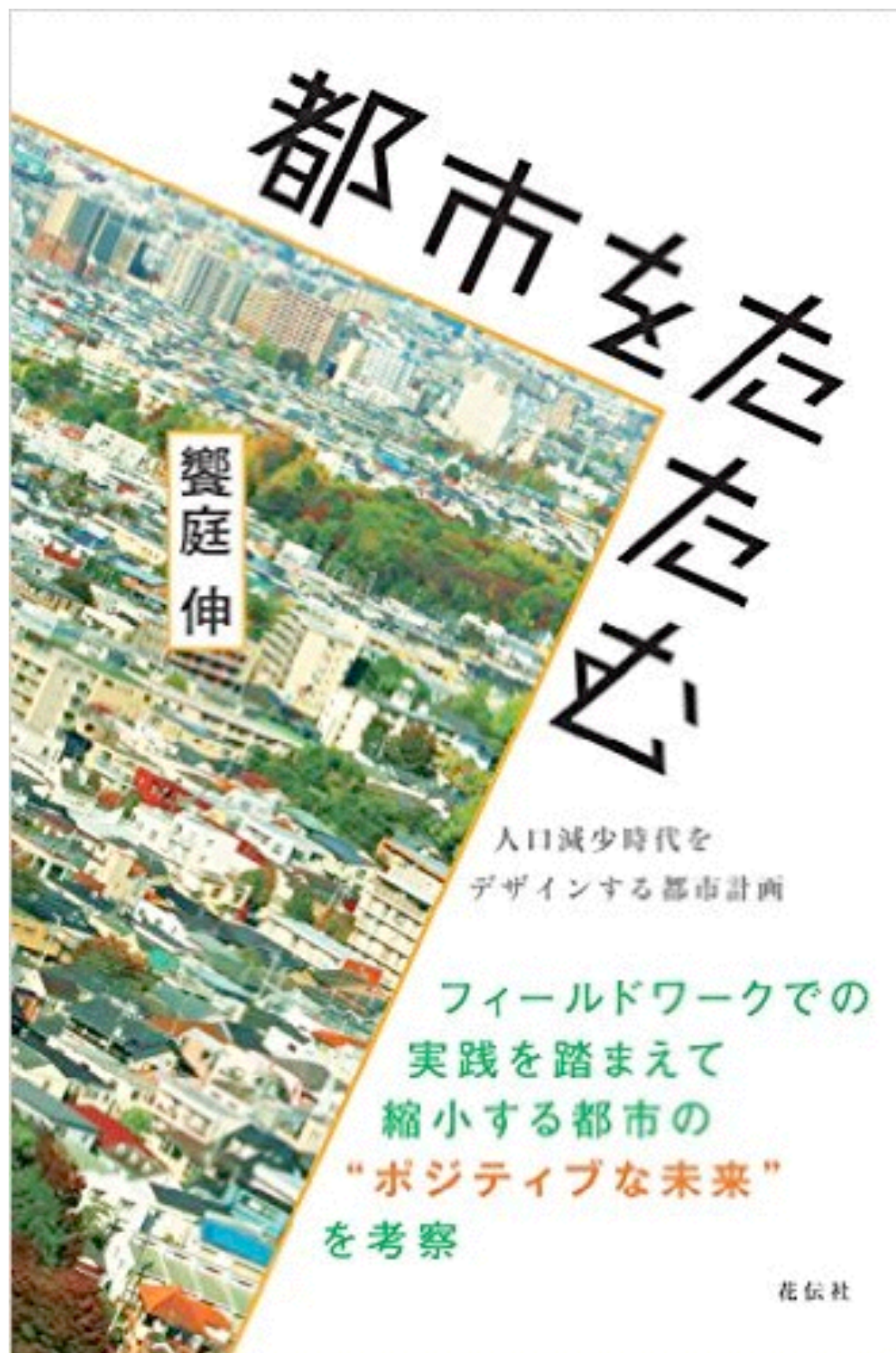
短い時間を「繰り返していく」ことが重要。

ポイント 5 都市を大きくは変えることは難しいが、小さくは変えることは簡単である。

小さな「思い」から始まった。

小さなプロジェクトが小さく都市をかえる。

全体が大きく変わることはない。



都市をたたむ

人口減少時代をデザインする都市計画

出版社: 花伝社 (2015/12/16)